

日時	平成 25 年 7 月 3 日（水） 15：30～17：00
場所	永田町合同庁舎 1 階 第 1 共用会議室
議題	環境未来都市推進委員会（第 1 回）
委員出席者	秋山委員、浅見委員、井上委員、柏木委員、久野委員、妹尾委員、 野田委員、オーエン委員、村上委員、山家委員
事務局出席者	加藤局長、富屋局長代理、猪熊次長、福島次長、成瀬参事官ほか
議事概要	

【議事（1）】

■地域活性化統合事務局長あいさつ

【議事（2）】

■資料 1 に基づき、事務局より本委員会の設置要綱の説明を行った。

【議事（3）】

■資料 2 に基づき、事務局より本委員会の委員の紹介を行った。

【議事（4）】

■これまでの経緯を踏まえて、事務局は村上委員を座長に指名し、他委員より異議なく承認された。

～以後、議事進行は村上座長によって執り行われた～

【議事（5）】

■資料 3 に基づき、事務局より「環境未来都市」構想の趣旨説明を行った。

<説明概要>

- ・平成 20 年度、低炭素社会を目指す環境モデル都市 13 都市を選定。
- ・平成 23 年 12 月、環境・社会・経済の 3 側面に優れた持続可能な都市として、環境未来都市 11 都市を選定。
- ・平成 25 年 3 月、大臣指示により、「環境未来都市」構想に環境モデル都市を統合。
- ・平成 25 年 3 月、環境モデル都市 7 都市を追加選定。
- ・今後、委員の先生方の助言を受けながら、本構想を進めていきたい。

【議事（6）】

■別途配布資料に基づき、村上座長より「環境未来都市構想-政策的枠組みと取組の評価」のプレゼンテーションが行われた。

■別途配布資料に基づき、柏木委員より「持続可能なエネルギー社会と未来都市」のプレゼンテーションが行われた。

【議事（7）】

■新規委員を中心に意見交換を実施した。

<意見内容>

- ・環境や経済といった観点は評価のイメージがつくが、超高齢化等に代表される社会の観点の評価はどのように行うのか。⇒一口には語れないが、各自治体が把握している「健康寿命」等の数値を取り入

れて一定の評価が可能となるようにしている。

- ・構想自体が持つビジョンは素晴らしいが、自身の経験からすると市民をいかに巻き込むかが非常に難しく、又重要なポイントになると考える。上手くインセンティブを付けて、本構想が推進出来ると良い。
- ・本構想を推進するにあたっては自治体の役割が非常に重要になると認識しているが、「環境」「高齢化」という具合に縦割りになりがちな自治体の中で、どのように各課を連携させていくのか。⇒行政の縦割りについては今後克服していくべき課題であって、未解決の問題であると認識している。
- ・都市によって目指す経済の在り方は違って良いのか。⇒目指すべき経済像は当然違って良い。多様性こそが重要であると認識している。
- ・都市規模に応じたサクセスストーリーを早急に作ることが重要。
- ・自治体の職員の質向上のための教育機会を作るべき。⇒自治体中間管理職のキャパシティビルディングは重要な問題であると認識している。
- ・ただ便利だけでなく、自立可能な都市を目指すべき。
- ・認定の単位を1つの自治体でクローズにするのではなく、連携した形での認定を行ってもよいのではないか。⇒モデル都市でも未来都市でも自治体間連携を認めている。実際に、気仙広域連合という形で認定もしている。

【議事（8）】

資料4に基づき、事務局より本委員会の今後の進め方について報告を行った。

＜内容＞

- ・8月に第2回環境未来都市推進委員会を行い、H24年度取組の評価を行う。
- ・年内を目途に環境モデル都市の追加選定を行う。

【追加議事】

村上座長より、環境モデル都市の追加選定に際して環境モデル都市ワーキンググループを設置することが報告された。

以上